



# 「生き生きとした活発な仲間たちの集い：vigla」。その実現のため、グループ内外の業務受託に挑戦

株式会社T-NET vigla



## 企業プロフィール



株式会社T-NET vigla  
代表者：代表取締役社長 相良定男  
〒761-8081  
高知県高松市成合町930-10  
TEL 087-886-8150  
FAX 087-886-8102

### 業種および主な事業内容

経理事務、総務事務、福利厚生関連事務、機械設計（CAD製図）、施設管理、名刺制作などティーネットグループの各種業務の受託および損害保険代理業務

### 従業員数

14名（平成18年3月現在）うち障害者10名

### <内訳>

肢体不自由者5名（うち重度4名）、視覚障害者1名、聴覚障害者3名（うち重度3名）、知的障害者1名

### 事業所の概要と障害者雇用の経緯

親会社のティーネットジャパンは、昭和51年に土木・建築のコンサルタントや施工管理を行う企業として四国を中心に業務を開始、現在では全国規模の土木・建設工事や自動車産業のエンジニアリング企業などに管理技術者を派遣する総合エンジニアリング業として大きく変身を遂げている。この間、障害者雇用に努力しつつも従業員数の増加に伴い、法定雇用率を維持することが課題となっていた。

このような状況に対応し、積極的に障害者雇用を前進させる目的で、社団法人高知県雇用開発協会やハローワークなどの助言を得て、特例子会社設立を決定、平成17年2月に新規採用の障害者と親会社からの出向者によって、ティーネットグループの事務部門の業務を受託する企業としてスタートした（認定は同年7月）。

## 障害の有無に関係なく個々の長所を活かす

### 生き生きと働ける会社を目指す

社名のviglaとは、エスペラント語(国際共通補助言語)で、「生き生きとした活発な仲間たちの集い」という意味だが、ティーネットグループの一員として、障害の有無に関係なく個々の長所を活かして、生き生きと働ける会社を目指すことをテーマに掲げている。

当初は健常者の従業員の中に障害者の社会参画に協力したいという意識がないわけではなかった。しかし、実際に一緒に仕事をしてみてわずかしか時間が経っていないが、「人にはそれぞれ長所と短所があり、それをお互いに補完しあいながら仕事を進めていくことに健常者も

障害者もない」ということが社内全体で理解されるようになってきた。

そして、これまで得意な点を生かしたくてもできなかった夢を仕事を通じて実現する場を少しでも拡大していきたいという意気込みが全員の中に高まってきている。そして、ハンディを克服、健常者と対等にその長所を活用できるよう、肢体不自由者には設備改善、聴覚障害者にはコミュニケーション方法の改善など、職場環境の整備に取り組むことにしている。

現在はティーネットグループの受託業務中心だが、その夢をさらに実現するために、今後はより自立した企業として外部の仕事も意欲的に受注していくことにしている。



広々としたviglaの職場風景

駐車するときは、スペースの右側に寄せるのがルール。通り道が広くなり、車椅子でも乗降しやすい。



### ここが聞きたい! チームワークでハンディを克服

#### 働ける喜びを感じている仲間とともに夢の実現のために努力したい

T-NET viglaの仕事に障害者の仲間たちと一緒に仕事をしてみて、彼らのエネルギーを肌で感じています。これまでやりたくてもできなかったことが今実現しようとしている喜びを感じながら力を発揮しようとしている仲間たちと、さらなる可能性に挑戦したいと思う毎日です。

会社のチームワークは、バラ寿司のようなもので、それぞれが持っている良さを発揮し合うことで、チームとしての妙味が生まれるものではないでしょうか。肢体不自由

#### 相良定男代表取締役社長

者と聴覚障害者を組み合わせるなど、チームワークによって、ハンディを克服して長所を発揮する仕事の受注方法がいくらかもあると考えています。

このような発想の中で例えば指定管理者制度というものに挑戦をしたりしていますが、グループの営業の力を活用しながら、新たな外部の業務を受託していきたいと考えています。



## 問題点と対応策

1

事業開始に当たっての既存の建物の構造をどう改善したのか。

>> 駐車場からエントランスへのアプローチ、入口の引き戸、事務所から手洗いへも通路を設けて、車椅子用のトイレを新たにつくるなどの改善を行った。

詳細は65Pでクローズアップ

2

作業開始までの事務所内をどう改善したのか。

>> 事務机をすべて壁際に配置、中央にミーティング用の大机、配線はすべて机下など車椅子の走行には最大限に配慮した。そのほか、室内照度も低い視野からも明るさが保てるようにした。

3

未経験な新人の障害者を迎え、どのように業務の知識を教育するのか。

>> 親会社からの出向社員によるジョブコーチ制により、基礎知識の習得から始まり、当面業務の知識の習得に力を入れている。

4

自立した企業として業務の確保をどうするのか。

>> 当面ティーネットグループからの受注を重点に、積極的に受注可能な業務を洗い出す。同時に、グループの営業の力を活用、官民を問わず外部の受注にも力を入れている。

### ここが聞きたい! 明るく生き生きとした職場づくり

#### 一番気を配っているのは相互のコミュニケーションを円滑にすること

肢体不自由者に対しては、施設や職場環境のユニバーサルデザイン化を徹底することで、車椅子利用者でも自由に行動できるように配慮してきました。



それだけでなく、明るく生き生きとした職場づくりをするためにはコミュニケーションが円滑になるように

#### 角森芳樹取締役マネージャー

最大の配慮をしています。特に聴覚障害者に対しては、会議などですぐ隣りに手話のできる人間を配置して、会議の内容が遅滞なく伝わるように注意するとともに、聴覚障害者の意見を努めて聞くようにもしています。

こうした配慮が全員に伝わり、健常者、肢体不自由者、聴覚障害者など、相互のコミュニケーションもよくなり、明るい活発な雰囲気ができてきたのだと思っています。



クローズアップ

1

事業開始にあたって  
駐車場やトイレなどの施設を大改善

viglaの設立にあたり、事務所は本社ビルの1階部分を賃借することになり、ユニバーサルデザインの専門家のアドバイスを受け、下肢障害者向けにバリアフリーを目指して施設を大改造した。

具体的には、駐車場・スロープについては、原状を生かしながら、勾配の取り方、幅の確保

を工夫することで対応した。エントランスドアについては引き戸に改造。また、ドア1枚を撤去、出口を取り替えることで、事務所から通路を経て、手洗いに行けるように改造。トイレについては、既存のトイレを1カ所標準的な車椅子仕様にすると同時に、新たに1カ所車椅子仕様のものを設置した。

引き戸に改善した  
エントランスドア



事務所から  
通路を経てトイレへ



駐車場から  
エントランスへの  
スロープ



車椅子仕様にした  
2カ所のトイレ



## 2

室内照度を工夫するなど  
事務所内をさまざまに改善

事務所の内部については、各人の事務机はすべて高さ70cmで壁面に作り付け式にしており、中央には大机を配置、ミーティングや作業指示用に使用している。また、配線はすべて机下にして、床上のケーブル管は皆無である。そのため、車椅子の移動スペースが確保され、走行も自由にできるように配慮した。

また、机や棚を壁面に新たに設置し、壁紙を撤去することになったため、車椅子の低い視野からでも照度が保てるように明るい壁紙を選定するなど、室内照度についても工夫している。



車椅子の移動  
スペースを確保した  
ゆったりした机の配置と  
配線のない床

車椅子の低い視野  
からも照度が保てるように  
工夫されている

## 3

オペレーション開始に当たっての  
社員教育に注力

新規採用者5名のほとんどが業務未経験者だったため、ティーネットジャパンから出向させた障害のある社員3名を含む6名のプロパー社員による社内ジョブコーチ制を採用して、通常の新入社員研修と同様に、基礎知識の習得およびOA機器の操作技術の向上から開始した。

さらに、当初はティーネットグループの事務部門の業務の受託からスタートしたため、出向社員を総務人事チームと経理チームに分け、それぞれシニアチーフを任命し責任を持たせるようにした。そのうえで、新人5名はスタッフとして月間スケジュールに沿って、月初に経理事務から始め、終われば給与計算に移るというように、グループワーク方式を採用している。今後は、習熟の度合いに合わせて、一人で最初から最後までを行う方式を導入することにしている。

また、定期的に理解度確認テストを行って的確に業務知識が把握されているか確認のうえ、適切な指導を行うようにしている。



壁面に作り付け式にした  
デスク配置(左手が経理チーム、  
中央にミーティング用の中央机、  
その奥が総務人事チーム)

## 4 自立した企業としての業務の確保

これまでティーネットグループの業務の受託を中心に運営してきたが、今後もさらに業務を洗い出して移管可能なものは積極的に受託して、そのために必要な人材は新規採用を図っていく方針である。

同時に、「障害の有無に関係なく生き生きと働ける会社を目指す」というvigla創業の夢を実現するためには、親会社の営業の力も借りながら、官民を問わずグループ以外の業務を積極的に受託することで、より自立した企業として成長することを目指している。

T-NET viglaでは、今後とも多くの方々の理解を得て、協力関係を結ぶ中で、さまざまな業務の受託に挑戦していくことにしている。



### 肢体不自由者からみた「働きやすい職場」とは



#### 明るい職場には満足、もっとスキルアップしたい

経理チームの植村雅司さん（平成17年入社）

4年半前に歯科技工の事務員を辞めてからは、在宅で就労し、ホームページの制作などを行っていました。現在は経理部門の仕事を主に行っており、勘定明細のチェックやリース資産や固定資産の管理の仕事をしています。

前の会社では聴覚障害者の人たちがうまくコミュニケーションが取れないなど、問題が多かったのですが、その点、viglaではコミュニケーションもよく取れており、雰囲気は明るいですね。バリアフリーなど職場環境にも満足しています。

現在の仕事についてはまだまだ勉強の日々で、もっとスキルアップしてからいろいろ提案したいとも考えています。

#### もっと勉強して、ホームページ制作などもやってみたい

総務人事チームの池田貴昭さん（平成17年入社）

10年前に事故で肢体不自由になってからは、仕事をしたことはありませんでした。これまで、岡山の国立吉備高原職業リハビリテーションセンターで、1年間パソコンを使ったデザインやホームページ制作、ポスター制作などの勉強をしました。

現在の仕事は、共済会や持株会など総務や人事関係の事務的な仕事です。まだ、仕事に慣れていないので、偉そうなことは言えませんが、できればホームページの制作などの仕事をやってみたいですね。

